

まちづくり懇談会レポート



町民と町長が、まちづくりについて意見交換する、まちづくり懇談会が全11行政区で開催されました。

植田満町長が町政執行方針を、佐川純副町長と熊田義信教育長が予算概要の説明をしたあと、参加者から多くの質問や意見が出されました。今回は、その主なものを紹介します。

地域公共交通

参加者 地域公共交通の実証運行は、来年度以降どうするのか。

町 3年目を迎えた実証運行は、今年8月から9月までの間、徳富

総進方面を対象として、乗合タクシーにより滝川市まで運行します。また、上総進方面では、中央バスのふるさと公園線と上総進線を統合して実施します。実証運行終了後、データを分析し、24年度以降の運行形態について検討を行っていきます。

住所表示

参加者 住所の字名で「字



町 住所表示の改正には、かなりの費用がかかることから難しいです。また、住民の中には改正の必要性を感じていない方も多く、理解が得られにくいと考えます。地番表示板は、現在、配布していませんが、表示板の取りまとめについては今後検討したい。

議会

参加者 平日に傍聴日を設定すると働いている人が傍聴できない。土日祝日または平日夜間に傍聴できるように議会の開催日を設定できないのか。

町 土日祝日または平日夜間に議会を行うことは可能です。「開かれた議会」について、議員内で検討中なので、議員の意向を踏まえ検討したい。

町長の宣誓

参加者 まちづくり基本条例が制定され、条例に基づき町長が議会で宣誓を行ったが、せっかくの宣誓なのに、議会で行っていないので、町民の前でも宣誓を行った方がいいのでは。

町 宣誓だけのために町民の方を集めることは、なかなか難しいため、町民の代表である議員の前でやらせていただいたことを理解していただきたいと思います。

高齢者の暮らし

参加者 総合計画のアンケート結果



で、整備が必要な施設として高齢者福祉施設が44%という高い数値となっていることをどのように考えているのか。

町 老人大学等の活動を含め、ゆめりあを福祉施設の拠点と位置付けています。また、老人ホーム等の施設は明和会に譲渡し、円滑な運営を行っています。商工会で高齢者の買い物難民についての調査を行ったが、生協の宅配のほか、徳富区、大和区、花月区ではJAPINが宅配サービスを行っており、買物難民の該当者はおりませんでした。今後は、お年寄りの見守り等ができるGPSを利用した仕組みについて研究しながら、安心して暮らしていただけるまちづくりを進

めていきたい。

福祉施設とまちづくり

参加者 共同生活介護事業所「ピンネ」(旧よしの園)が花月地区に移ったが、かおる園と2つの福祉施設があることよって、どのようなまちづくりを進めていくのか。

町 平成19年度から明和会が、かおる園とよしの園を管理運営し、今年度、花月地区に集約されることになりました。かおる園祭など、地域との交流が芽生えてきたのではないかと思っています。施設利用者の生活必需品の購入もあり、経済効果も上がっていると思います。地域としてこれからも支援をしていただき、交流を深めていくことを願っています。また、施設職員については、できるだけ地元に住んでもらうよう明和会に要請していきたい。

美しいまちづくり

参加者 植樹ますの中に砂や石、がれき等が入っていて花が植えられない状態となっているため、土の入れ替えをしてほしい。また、住民から個人住宅や公共施設で手入れが行き届いていないとの苦情もあり、役場や地域、各団体が連携

した仕組みづくりが必要ではないか。

町 植樹ますの土については、連絡いただければ対応したい。一般住宅の管理に関しては、勝手に手を付けられないことから、様々な広報活動で注意喚起を行いたい。各団体との連携に関しては、機会があれば呼び掛けていきたい。

有害鳥獣対策

参加者 キタキツネが出没しており、エキノコックスが心配なので駆除できないか。

町 人畜や農作物への被害が明白であれば有害鳥獣として駆除できるが、ただ歩いているだけでは駆除できません。自衛手段として、生ごみを食い散らかされないようなごみ用のボックスの用意や手洗いを励行するなどの対策をとってほしい。

参加者 カラスがごみをあさり、近所に迷惑をかけているが、ごみを出した本人は気付いておらず、改善が見られない。そこで、収集業者側で「動物襲撃被害メモ」を配達してはどうか。また、各戸に「ごみ袋置き箱設置」を呼びかけてはどうか。

町 非常に良いアイデアなので、動物襲撃被害メモを用意し、収集業者に渡すようにしたい。また、おのおの工夫して、カラスがごみをあさらないよう自己防衛に努めてほしい。

農業振興

参加者 農業後継者が減少しているのは、農業の将来に対する展望がないためではないのか。個人経営ではなく会社経営にしていくことを検討することも必要ではないか。



町 65歳以上の農業経営者は全体の25%、60歳以上では40%にもなり、このまま担い手不足が続けば耕作放棄地が発生してしまう。今後JAピンネ、新十津川町、浦臼町の3団体で農業振興公社を立ち上げ、担い手不足の解消、農地の集積、作業の受委託を中心に対応を図っていききたい。

地域ブランド力

参加者 農産物のブランド力を高め、ブランド化の取組みを継続するため、町民一人一人が、お歳暮に町内のものを使うなどしてPRしていくことが大切ではないか。

町 現在、高糖度トマトとメロンが

ブランド産品として指定されています。しかし、指定しただけでは不十分のため、アンテナショップに出して流通させていきたい。また、米は農協が一元集荷していますが、その一部を分けてもらい、独自に流通させていきたい。今後、販売戦略の検討には、一層の努力を図っていききたい。

町内産の農産物

参加者 町内で生産された農産物がなかなか手に入らないとよく聞く。町内にアンテナショップの役割を持つ施設はないのか。

町 本町は、米が主力ですが、メロン、インゲン豆、トマト等の多種多様な素晴らしい農産物があります。また、

昨年度販売したインゲン豆プリンは大変好評でした。農協ストアの入口付近には、町内で採れた農産物の特設コーナーがあるので、一度のぞいていただきたい。



地域防災マスター

参加者 地域防災マスターの全町的な組織を作ってはどうか。

町 行政が音頭をとって組織化しても命令されたような感じになり、長続きしないのではないかと思う。自主的に連携を深めてもらい、町はそのサポート役を務めていきたい。

災害時対応

参加者 洪水ハザードマップによれば橋本区市街地は2〜5分浸水するようだが、情報を早く伝えてもらえれば余裕をもって避難できるのではないか。

町 情報把握を的確に行い、防災無線等で情報を速やかに伝えていきたい。また、安全に避難できるよう、避難ルートの検証も行っていきたい。

お互いを支えあう地域づくり

参加者 区では、セーフティネットカードを作成しているが、個人情報保護の関係で普及が難しい。一



町 東日本大震災の際には、地域活動が盛んな地域では被害が少なかったと聞いています。震災を契機に災害に対する意識が高まったため、セーフティネットカードも普及するのではないのでしょうか。町では、緊急通報システムを導入していますが、更に進化したシステムについて検討していきたい。また、レクワーカーもコミュニケーションづくりの一環となるので、家に閉じこもらず、活動する機会として多くの方に参加していただきたい。6月から住民活動を支援



開催日	行政区・団体	参加人数	開催日	行政区・団体	参加人数
7月15日(金)	徳富区	19人	8月18日(木)	老人クラブ連合会	25人
7月19日(火)	橋本区	32人	8月22日(月)	弥生区	12人
7月21日(木)	花月区	27人	8月25日(木)	J A 青年部、商工会 青年部、青年協議会	20人
7月25日(月)	大和区	16人			
8月5日(金)	菊水区	17人	8月26日(金)	子育て中の親	10人
8月8日(月)	青葉区	31人	8月29日(月)	文京区	20人
8月10日(水)	みどり区	28人	8月31日(水)	総進区	31人
8月11日(木)	中央区	18人	計		306人



することを目的に住民活動グループを住民課に設置したので活用願いたい。

若者へのビジョン

参加者 町の活力の中核は、何といつても「若者の勢い」である。若い力を束ねていくビジョンは。

町 よそ者、若者、バカ者という言葉があるが、こういった人が中心になるのが望ましい。本町の青年は、真面目であり前線に出てこないようだが、ふるさとまつりなどのイベントで活躍しています。

また、総合行政審議会の委員に若い人が参加しており、青年の活躍の場は確保しています。行政に仕掛けていただければ、サポートしていききたい。

ボランティア活動

参加者 ボランティアの登録を、町では行っているのか？

町 ボランティア活動は様々であり、役場では住民活動グループが力になれると思います。また、社会福祉協議会でも相談を受けています。教育委員会には、人材バンク制度があり、そこにボランティア部門もあるのでぜひ活用してほしい。

尚武館

参加者 中学校の武道場の建設により、尚武館はなくなるのか。

町 尚武館は築後40年を経過し、老朽化が進んでいます。また、耐震構造にもなっていないことから、武道場建設後に解体します。補助金の関係上、武道場となつていますが、尚武館の名称の使用は可能であり、看板も従前のものを使用していきたい。

学習サポート支援事業

参加者 学習サポート支援事業は、とても良い事業であると思うが、午前の開催なのでスポーツ少年団の練習と重なってしまったのが残念である。日程について工夫を願

いたい。また、今後も継続していく予定があるのか。

町 今年から始めた学習サポート事業は、午前を小学生、午後を中学生として、全部で4日間開催しました。小学生94名、中学生32名の参加があり、児童生徒全体の22%が参加しました。夏休みは、スポーツ活動等も集中する期間なので全ての希望をかなえることは無理かもしれませんが、皆さんの声を聞いて新十津川スタイルを作っていきたいと考えています。学習サポート事業は、春休みは、期間が短いので実施しませんが、夏休み、冬休みについては、今後も継続していきたい。

